

千葉畜産工業(株)

社長名：野口 正見
環境管理責任者名：玉井 厚樹
ISO14001認証取得日：2000年3月31日



酵素処理による脱水汚泥量(脱水ケーキ)の削減

酵素の利用により排水に含まれる油脂分を分解し、浄化した上で放流する新システムを構築しました。酵素を利用するため環境への負荷が少なく、脱水汚泥量も大幅に削減されました。

さらに、臭気を除去する酵素水浄化のシステムにおいても検討しており、特に排水系で環境に配慮した事業所運営を目指しています。

2000年度実績(脱水ケーキ)：1,362トン

2001年度実績(脱水ケーキ)：818トン

酵素処理による使用薬品類の削減

酵素処理の影響でpHが酸性からアルカリ性に傾いたため、排水のpH調整のため注入していた苛性ソーダの使用量が減少しました。さらに、酵素が油分を水と脂肪酸とに分解することでノルマルヘキサンが減り、油分を凝固するために注入していた薬品(PAC)の使用量も併せて減少しました。

2000年度実績(苛性ソーダ、PAC)：73トン

2001年度実績(苛性ソーダ、PAC)：46トン

酵素処理によるその他の効果

移動式酵素点滴装置で側溝内に酵素を点滴することで、長年に亘り排水管の内壁に付着していた動植物性残渣などが剥がれ落ち、原水ピット内に塊となって溜まりました。それにより、側溝に排水が滞留しなくなり、衛生面において格段に向上しました。また、側溝から排水が溢れることによる現場のトラブルも著しく低下しました。



移動式酵素点滴装置



調整槽(油分溶解槽)



脱水汚泥



会社移転前の周辺環境(2001年度撮影)

近年、千葉畜産工業(株)の周辺には高層住宅や民家が立ち並び、近隣住民からの環境クレーム(騒音、振動、臭気など)の発生が懸念されていました。

(株)ニチレイフーズ船橋工場

工場長名：安藤 英彦
環境管理責任者名：篠原 龍浩
ISO14001認証取得日：2001年3月26日



最終処分廃棄物の削減

事業所内に点在する廃棄物保管置場の総合保管場所としてエコステーションを建設し、分別保管管理の向上を図りました。また、廃棄物の専任管理者3名を任命し、工程廃棄物の定期回収、エコステーションの運営管理業務の強化を図りました。

工程残渣回収の専用容器を作製し、従来のゴミ袋による回収を改め、廃プラの削減に貢献しました。

ペーパータオルの使用を制限し、エアータオルを導入しました。

2000年度実績：686トン

2001年度実績：459トン

用水量の削減

夜間洗浄(外部委託)に立ち会い、工程毎の適正な洗浄手順(時間、方法、頻度、留意事項など)を設定しました。また、それらの洗浄手順を現場に定着させるため、作業員に対し適切な教育を行いました。

ピラフ等の米飯製品の洗米及び浸漬工程を見直すことで、生産途中で発生する用水量を削減しました。

全ラインに関して作成している洗浄マニュアルを見直しました。

2000年度実績：423千m³

2001年度実績：343千m³

緑地環境の整備・改善による自然保護

2002年2月千葉畜産工業(株)移転に伴い、船橋フードタウン全体における各事業所敷地区割りを見直しました。その際、既存緑地の整備ならびに新たな緑地の増設を行い、自然保護に務めると共に、法で定める環境基準を遵守しました。

増設前の敷地内緑地面積：3,895m²

増設後の敷地内緑地面積：5,653m²



エコステーション



工程残渣回収の専用容器



夜間洗浄工程のチェック

千葉畜産工業(株)

(株)ニチレイフーズ船橋工場 / 緑地

(株)ニチレイフーズ船橋工場



事業所内緑地の増設